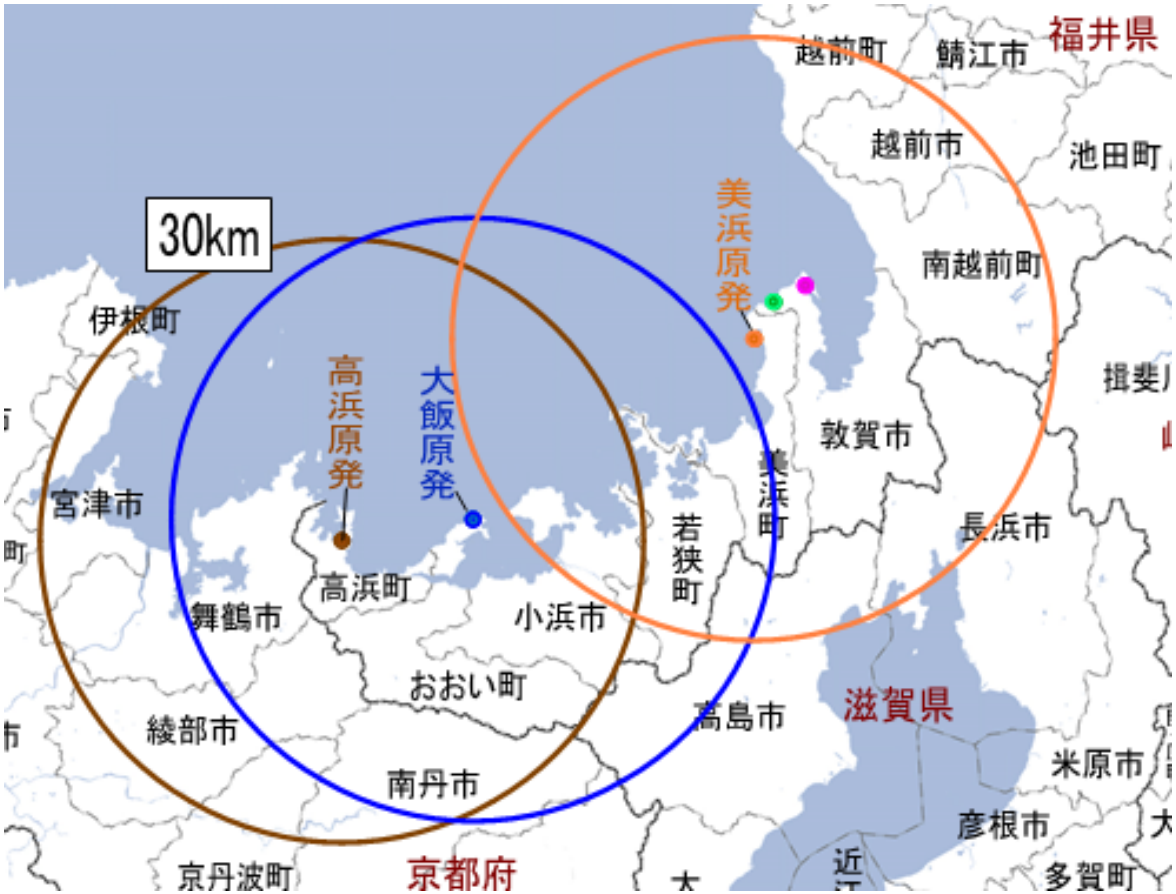
むつ中間貯蔵施設の共同利用は関電の老朽原発の運転継続のため共同利用を止めよう！

2026年10月20日　＜オンライン集会＞

老朽原発の延命のために、むつに全国の核のごみを押し付けないで！

島田清子（美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会）
森　妙子（避難計画を案ずる関西連絡会）

関電の原発：福井県若狭地方で7基が稼働



各原発から30km圏内の人口（PAZ+UPZ）

原発名	福井県	京都府	滋賀県	岐阜県	計
高浜原発	47,776	104,289	0	0	152,065
大飯原発	66,279	74,923	372	0	141,574
美浜原発	216,651	0	48,385	40	265,076

（2025年4月1日時点　内閣府　緊急時対応より）

※7基の原発
美浜3号、大飯3・4号、高浜1～4号

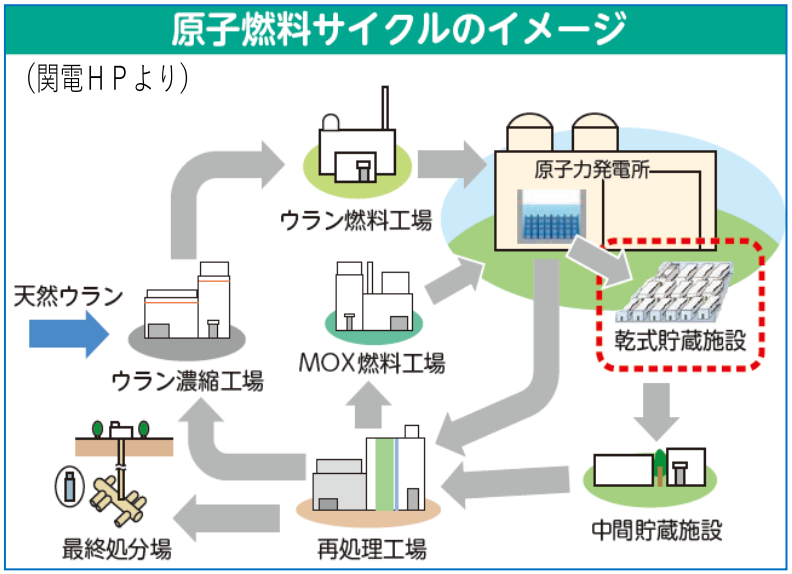
※30キロ圏内には京都府・滋賀県・岐阜県も入る

※老朽化が進む関電7基の原発

原　発	老朽化の現状	運転開始からの年数	営業運転開始
美浜３	今年12月で50年	49年10か月	1976.12. 1
高浜１	50年超え	51年10か月	1974.11.14
高浜２	50年超え	50年10か月	1975.11.14
高浜３	40年超え	41年8か月	1985. 1.17
高浜４	40年超え	41年3か月	1985. 6. 5
大飯3	30年超え	34年9か月	1991.12.18
大飯４	30年超え	33年7か月	1993. 2. 2

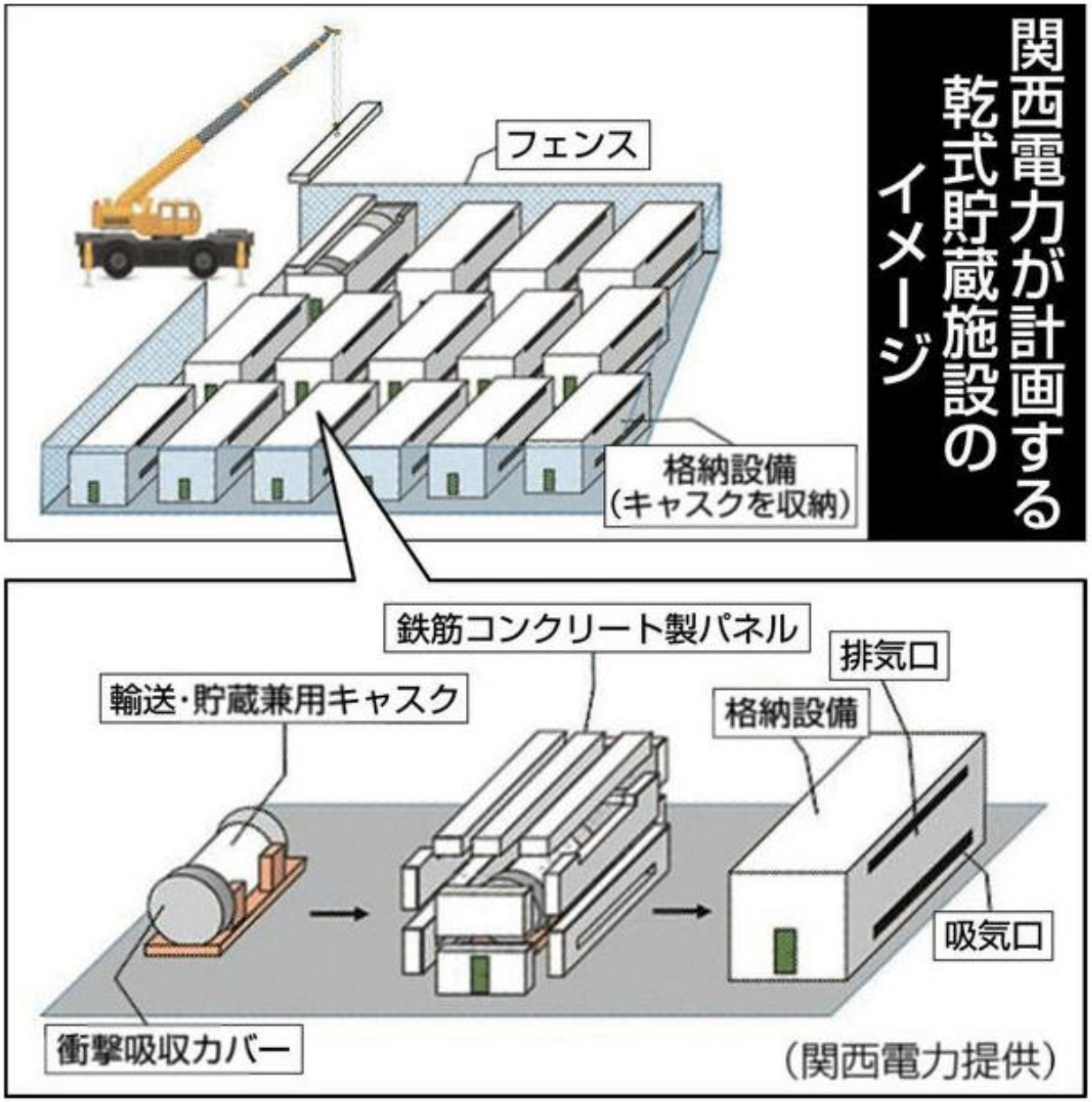
（2026年9月末現在）

今年5月以降、
美浜3号、大飯3号で
原子炉停止の事故が
立て続けに起きている
　老朽化とずさんな点
検によるもの



※左の関電HP図では
原発プール → 乾式貯蔵施設
→ 中間貯蔵施設となっている
（この中間貯蔵施設は何も決
まっていない）

これとは別に
原発プール → むつ中間貯蔵施設
への搬入を狙っている



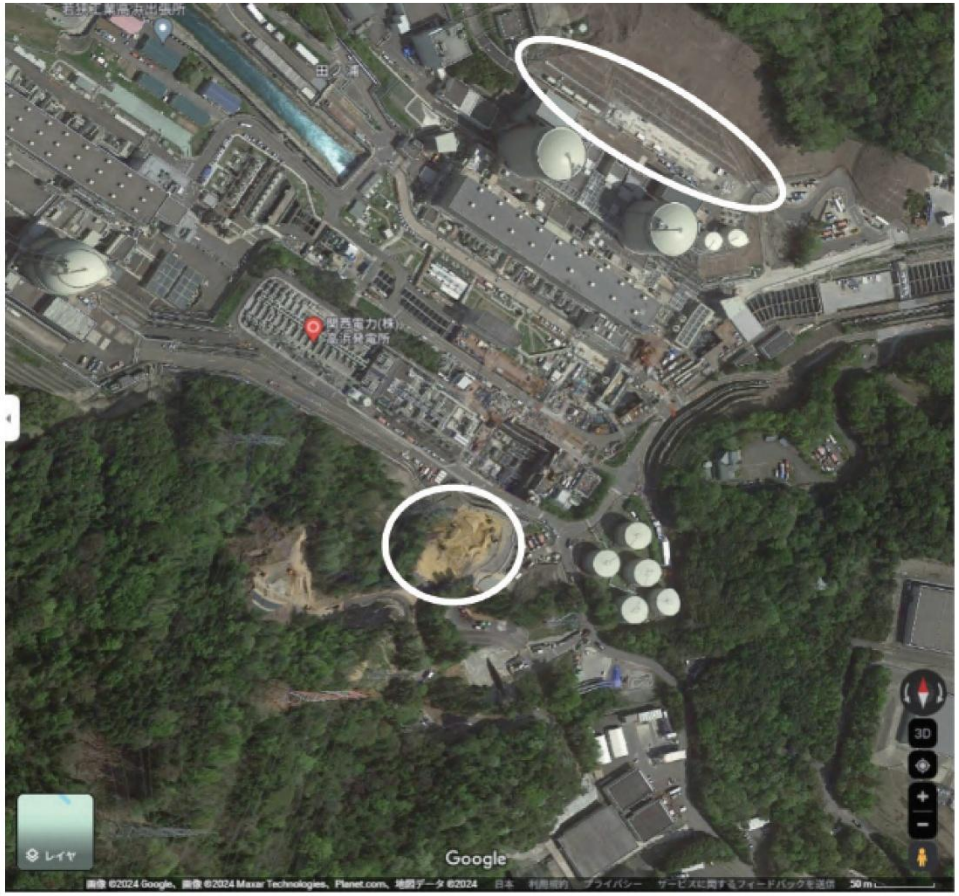
※ 関電の設置イメージ図

格納設備が土砂で埋もれた場合の除熱評価なし等、問題点が多い

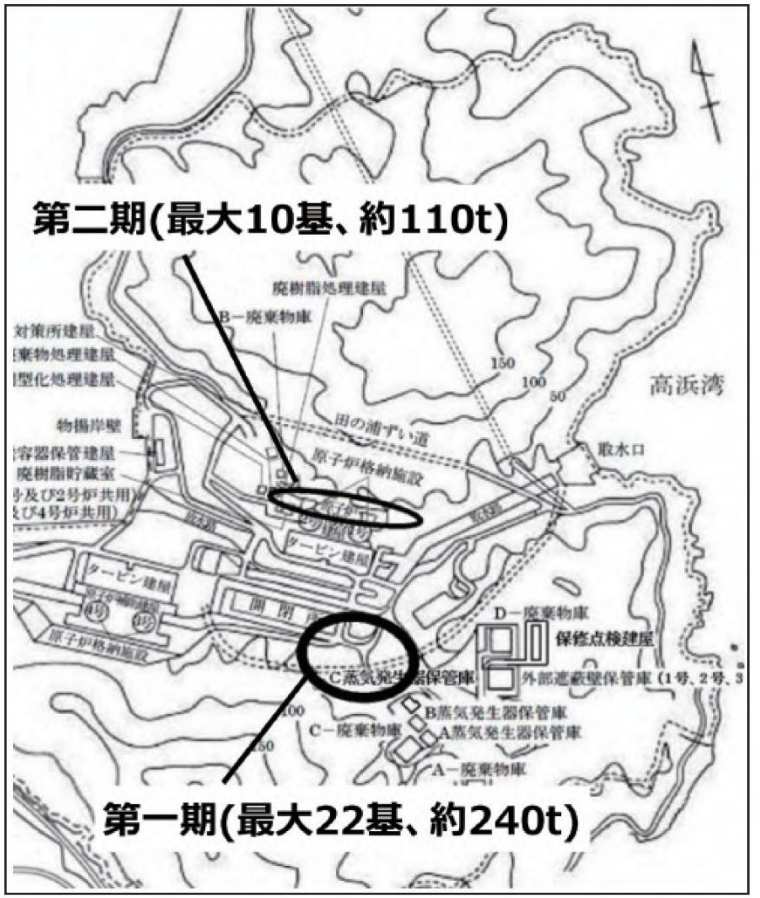
<格納設備の主な仕様>

材質	鉄筋コンクリート
寸法	幅：約6m、長さ：約9m、 高さ：約5m

高浜　乾式貯蔵施設の計画場所
狭い敷地。背後は崖



写真はグーグルアースより。設置場所の白丸印を追記



高浜原発での設置場所　関電資料2月27日より

1. 関電の原発プール、2～3年で満杯

原発の運転ができなくなる

関電の7基原発　使用済核燃料の貯蔵状況　2026年3月末

原発	管理容量(tU)	貯蔵量(tU)	貯蔵割合	残り回数	残り年数
美浜３号	300	240	80%	2.5	3.3
大飯３・４合計	1,780	1,630	92%	2.5	3.4
高浜１～４合計	1,730	1,570	91%	1.6	2.1
	合計　3,810	合計　3,440	平均　90%		

上記表の注

- 管理容量は、貯蔵容量から1炉心を引いたもの。
- 貯蔵量は、福井県原子力安全対策課の「発電所の運転・建設年報　令和6年度」による2024年度末時点の数値に、2026年3月までの関電の定検報告による取替体数を加算。
- 残り回数は、１回の取替で1/3炉心を取替える想定。
- 残り年数は、１サイクルの運転期間１３カ月、定検期間３ヶ月の計１６ヶ月として計算。

※美浜3号は2028年度までに再処理工場へ30トン搬出できなければ、運転停止。むつへ搬出か？

美浜3号機　六ヶ所再処理工場への搬出計画（関電ロードマップ2025年より）

年度	2024	2025-2026	2027-2028	2029-2030	2031-2032	2033-2034
発生量(2年分)(ﾄﾝ)	-	40	40	30	30	30
搬出量(2年分)(ﾄﾝ)	-	0	★ 30	30	10	40
期末貯蔵量(ﾄﾝ)	220	260	270	270	290	280
期末空き容量(ﾄﾝ)	80	40	★ 30	30	10	20
貯蔵率(%)(貯蔵量/管理容量)	73.3	86.7	90.0	90.0	96.7	93.3

2. 関電の使用済核燃料の対策

① 六ヶ所再処理工場への搬出：2028年度から➡ ほぼ無理

② 原発敷地内での乾式貯蔵施設の建設➡ 建設が遅れる
4か所で約700トン

（美浜：10基で約100トン、高浜1期分：22基で240トン、
高浜2期分：10基で約110トン、大飯：約23基で約250トン）

③ フランスへの搬出 2027年度から 300トン
（使用済MOX燃料再処理実証試験 ）

④ 関電の中間貯蔵施設 2030年頃までに操業開始
➡ 何も決まっていない

山口県上関の中間貯蔵施設は、規模等も示されておらず、県民の反対が強い

⑤ むつ中間貯蔵施設への搬出 500トン
➡上記では足らないため、参画表明

3. むつへの搬出も乾式貯蔵施設も急場しのぎ

それ程までにひっ迫

関電原発7基の使用済核燃料の発生量は、年間約130トン

① 乾式貯蔵施設700トン　使用済核燃料の約5.4年分　（700÷130＝5.4年）

最も早い高浜第1期分と美浜での運用開始は2029年度

（高浜第1期分は、当初は2027年完成予定だった）

キャスク製造の関係で、高浜第1期分と美浜で約83トン分（約0.6年分）のみ

美浜5基（約50トン）、高浜第一期3基（約33トン）を先に建設・設置予定

② むつへの搬出500トン　使用済核燃料の約3.8年分　（500÷130＝3.8）

2028年度からの搬出を狙っている。しかし、むつの立地協定に関電は含まれず

★再処理工場、乾式貯蔵施設が遅れているため、むつへの搬出を先行する計画

それだけ関電の原発の使用済核燃料はひっ迫している

むつ中間貯蔵施設への搬出が先の計画

※1　乾式貯蔵施設の運用開始は2029年度

	項目		年度			
			2026	2027	2028	2029
美浜	審査工程		▽申請 ▽認可 設工認			
	検査工程		▽使用前確認申請	使用前事業者検査		▽使用前確認証
	工事工程	乾式キャスク（5基）		設置工事		▽運用開始
高浜（第一期）	審査工程		▽申請 ▽認可	設工認		
	検査工程			▽使用前確認申請 使用前事業者検査		▽使用前確認証
	工事工程	乾式キャスク（3基）		設置工事		▽運用開始

※2　むつへの事業者間連携によるむつへの搬出は2028年度



※1）2026年10月6日　審査会合での関電資料　資料2-2より　https://x.gd/p1XG8
「設置工事」は設工認の認可後2027年頃からとなっているが、既に10月から一部工事を開始

※2）2026 年 9 月 18 日付東電等の資料「リサイクル燃料貯蔵株式会社（RFS）に関する中長期搬入・搬出計画について」6頁より　https://x.gd/zuORs

4. 福井・関西での共同した取り組み

① 福井県議会の乾式貯蔵施設反対の陳情など

・昨年から6回の陳情書提出

・六ヶ所再処理工場が遅れることで、福井県は乾式貯蔵施設の建設同意表明（事前了解）を延期してきた

・8月28日に同意を表明。その日の内に関電に伝えた

・その直前の8月25日には、緊急の反対要請行動

関電は8月31日に規制委に設計・工事計画の申請書を提出（設工認）
10月6日に1回目の審査会合（美浜と高浜第1期分）



8月25日　福井県議会に要請行動





同日　福井県に要請行動

② 議会のたびごとに、県議・知事に反対メールを送る
　議会での野党議員の発言は、メールの内容を汲んでくれていた

③ むつ中間貯蔵反対を含む県との面談　〇日
　同、滋賀県との面談　〇日

④ 乾式貯蔵について規制委・規制庁に質問・要望書提出

⑤ 避難関西で声明を発出（9月24日）
　［声明］むつ中間貯蔵施設の事業者間連携の計画を撤回せよ

・事業者間連携は、関電を救済し、老朽原発の運転継続のため
・再処理できなければ、むつ市に核のごみが居座り続ける

（東電、原電、関電、むつ市、青森県、福井県等に送付）

関電のむつ中間貯蔵施設の共同利用を止めよう

中間貯蔵施設、乾式貯蔵施設に反対し
老朽原発の運転を止めていこう！